

別冊（資料編）

つくば市公共施設バリアフリー整備に係る方針
～当事者の声を聞いて、誰もが使いやすい施設に～

令和8年(2026年)6月

財務部公共資産利活用推進課

目 次

1	これまでのつくば市の当事者参画事例（本編 3－4 関連）	1
(1)	【構想・計画段階】（仮称）つくば市陸上競技場整備事業	2
(2)	【構想・計画段階】谷田部小学校外基本構想	4
(3)	【実施設計段階】（仮称）つくば市陸上競技場整備事業	7
(4)	【施工段階】つくば市民・学校プール	10
(5)	【維持管理・運営フェーズ】コリドイオ（つくば市民センター）	14
(6)	【維持管理・運営フェーズ】大穂交流センター・大穂体育館	18
2	よくあるバリアの例（本編 第4章 関連）	22
テーマ1	案内表示（誘導サイン、エリアサイン、説明サイン）	23
テーマ2	アクセス・移動	24
テーマ3	手続き	29
テーマ4	アメニティ	31
テーマ5	利 用	39
その他		41

1 これまでのつくば市の当事者参画事例（本編 3－4 関連）

<当事者参画事例一覧>

フェーズ・段階	当事者参画事例				
	No	事業・施設	開催日	開催方式	ページ
施設実現フェーズ 構想・計画段階	1	(仮称)つくば市陸上競技場整備事業	令和5年(2023年) 4月22日 6月24日	ワークショップ	2
	2	谷田部小学校外基本構想	令和7年(2025年) 12月22日	ワークショップ	4
施設実現フェーズ 実施設計段階	3	(仮称)つくば市陸上競技場整備事業	令和7年(2025年) 6月27日	ワークショップ	7
施設実現フェーズ 施工段階	4	つくば市民・学校プール	令和4年(2022年) 4月28日	原寸確認(シミュレーション)	10
維持管理・運営 フェーズ	5	コリドイオ(つくば市民センター)	令和6年(2024年) 11月8日 11月15日	現地確認(点検)	14
	6	大穂交流センター、大穂体育館	令和7年(2025年) 7月25日 8月1日	現地確認(点検)	18

(1) (仮称) つくば市陸上競技場整備事業【施設実現フェーズ_構想・計画段階】

1 基本情報	
会議名等	(仮称) つくば市陸上競技場整備基本計画 第1回・第2回障害者スポーツ・バリアフリーに関するワークショップ
実施部署等	スポーツ施設課
実施日時・場所	第1回：令和5年(2023年)4月22日(土)13:30~15:40 第2回： // 6月24日(土)10:00~12:00 つくば市役所 201会議室、つくば市役所 防災会議室2
開催方式	ワークショップ (対面)

2 出席者			
<第1回：令和5年(2023年)4月22日(土)>			
	視点	団体及び人数	備考
当事者 6名	肢体不自由	つくば自立生活センターほにゃら 1名	
	知的・精神障害及びその介助者等	社会福祉法人創志会つくばライフサポートセンターみどりの 1名 一般応募 1名	
	障害者スポーツ団体	スペシャルオリンピックス日本・茨城 1名	
	パラアスリート	筑波技術大学 学生1名	
	一般人(障害者スポーツ経験あり)	筑波大学 学生1名	
有識者2名		筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 教授	(仮称)つくば市陸上競技場整備基本計画策定検討会議委員
		筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 教授	
つくば市 7名	事務局	市民部スポーツ施設課 7名	
<第2回：令和5年(2023年)6月24日(土)>			
	視点	団体及び人数	備考
当事者 5名	肢体不自由	つくば自立生活センターほにゃら 1名	
	知的・精神障害及びその介助者等	社会福祉法人創志会つくばライフサポートセンターみどりの 1名 一般応募 1名	
	障害者スポーツ団体	スペシャルオリンピックス日本・茨城 1名	
	パラアスリート	筑波技術大学 学生1名	
有識者2名		筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 教授	(仮称)つくば市陸上競技場整備基本計画策定検討会議委員
		筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 教授	
つくば市 7名	事務局	市民部スポーツ施設課 7名	

3 開催に向けて（事前準備～当日準備）

参加者選定と招集	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）つくば市陸上競技場基本計画策定委員である有識者と相談し、大学教授、競技団体役員、自立支援センター代表、学生、一般公募者など幅広い層に参加依頼した。
情報保障の事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを円滑に進めるため、全出席者に当日説明用資料（パワーポイント）を事前に送付した。 ・第1回ワークショップの出席者に弱視の方がいることが分かり、その方は第2回目ワークショップにも出席予定であったことから、資料共有方法について健常者と同じ対応で良いかの確認をとった。
当日資料とツール	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は、当日の説明用資料（パワーポイント）で、説明用資料はスクリーンに投影した。 ・会議の運営に係る事項として、プロジェクター、PC等を用意した。
当日の役割分担（市職員）	<ul style="list-style-type: none"> ・会場準備 全員 ・事業概要説明 1名

4 実施内容

1 事前説明	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの挨拶および資料に沿ったワークショップ趣旨を説明した。
2 現況確認と事例紹介を通じた共通認識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・新国立競技場のユニバーサルデザイン事例等を紹介し、バリアフリーの最新基準について共通認識を形成した。 ・日本パラスポーツ協会等の動画視聴（第2回）を通じ、障害の有無に関わらず楽しめるスポーツのあり方を共有した。
3 ハード面の意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・トラックの出入り口、観客席の屋根、車いす席の仕様（固定式）、駐車場（車止め高さ）、トイレ（ユニバーサルベッド、サイン）、点字ブロックの高さ・色など多岐にわたる意見を聴取した。
4 ソフト面の意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者優先利用日の設定、サポーターの配置、利用予約の簡便化、スタッフへの障害平等研修(DFT)の実施など。
5 意見・提案書の取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・出された意見を15項目（陸上競技場本体、観客席、管理棟、駐車場、障害者スポーツ等）に分類し、最終的な意見・提案書として整理した。

5 意見聴取後の対応・反省点


意見聴取後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・聴取した意見を反映させた「意見・提案書」を策定検討会議へ報告した。
----------	--

(2) 谷田部小学校外基本構想【施設実現フェーズ_構想・計画段階】

1 基本情報	
会議名	谷田部小学校外基本構想に係る意見交換 (公共施設バリアフリー整備に係る第5回意見交換会)
実施部署等	・公共資産利活用推進課 (公共施設バリアフリー整備に係る意見交換会の事務局) ・谷田部小外基本構想ワーキンググループ (事業の担当部署)
実施日時・ 場所	令和7年(2025年)12月22日(月)10:00~12:30 つくば市役所コミュニティ棟1階会議室A
開催方式	ワークショップ (対面)

2 出席者			
	視点	団体及び人数	備考
当事者 8名	肢体不自由	つくば自立生活センターほにゃら 1名	
	視覚障害	筑波技術大学保健科学部 准教授	オンライン参加
	聴覚障害	特定非営利活動法人つくば市聾者協会 2名	
	知的・精神障害及び その介助者	つくば市手をつなぐ育成会 1名	
	高齢者	つくば市シルバークラブ連合会 1名	
	妊産婦・乳幼児連れ	特定非営利活動法人ままとーん 1名	
	外国人	一般財団法人つくば市国際交流協会 1名	
有識者 2名		筑波技術大学産業技術学部 教授	
		筑波技術大学産業技術学部准 教授	
つくば市 16名	当事者関係部署	国際都市推進課 1名	外国人
		企画経営課 1名	つくば市バリアフリーマ スタープラン
		障害者地域支援室 1名	障害者
		高齢福祉課 2名	高齢者
		こども未来センター 1名	妊産婦・乳幼児連れ
	谷田部小外基本構 想担当 (谷田部小 外基本構想ワーキ ンググループ)	スポーツ施設課 1名	体育館担当
		地域支援課 1名	市民ホール担当
		教育施設課 1名	学校施設担当
		学び推進課 1名	学校教諭
		公共資産利活用推進課 1名	基本構想全般
事務局	(株)長大 1名	設計者	
	公共資産利活用推進課 4名	ファシリテーター、マイ ク、PC操作等	

3 開催に向けて（事前準備～当日準備）

<p>参加者選定と招集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者は「つくば市公共施設バリアフリー整備に係る方針」策定のための意見交換会メンバーに参加依頼した。有識者も方針策定のために協力していただいている筑波技術大学の先生に参加依頼した。 ・市出席者については、意見交換会メンバー（当事者関係部署）に加え、今回のテーマである谷田部小学校外基本構想のワーキングメンバー（谷田部小外基本構想担当）に参加依頼した。 ・開催にあたっては、開催通知をメール等で送付し、同じくメール等で出欠の確認をした（高齢者は郵送や電話対応）。 ・視覚障害者への通知についてもメールで行い、添付ファイル（開催通知文）の内容をメール本文にも記載した。また、オンライン参加も可能である旨連絡した（オンライン参加ができるような体制を整えておいた）。
<p>情報保障の事前準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者への情報保障として、手話通訳者を茨城県立障害者福祉センターやすらぎにFAXで依頼。 ・意見交換を円滑に進めるため、全出席者に会議の2日前くらいに当日説明用資料（パワーポイント）を送付した。また、視覚障害者へは、情報保障として当日説明用資料（パワーポイント形式）に加え、そのテキスト版（ワード）も作成して送付した。
<p>当日資料とツール</p>	<p>（当日資料）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は、出席者名簿、当日の説明用資料（パワーポイント）で、説明用資料をスクリーンに投影した。 ・また、会場は椅子のみで机は設置しない関係から、資料はバインダーで挟んで渡した。 <p>（準備したツール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター、スクリーン等（資料等の投影） ・マイク ・谷田部小外基本構想担当の名札（誰がどの担当か分かるように） ・ふせんとペン（メモを書くため） ・ホワイトボード（ふせんを貼るため）
<p>当日の会場運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者座席はU字型配置（椅子のみ）で、全体を見やすく対話重視とした（自由席）。 ・手話通訳者（2名）の位置（どこで通訳するか）については、手話通訳者及び出席する聴覚障害者と調整して決定した。 
<p>当日の役割分担（市職員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者関係部署は、出席者の一人として意見交換会に参加（当事者と一緒に作業）。 ・谷田部小学校外基本構想担当（谷田部小外基本構想ワーキンググループ）は、事業の概要説明や質問対応。 ・事務局（公共資産利活用推進課）4名は、ファシリテーター1名、PC操作1名、マイク係1名、出席者の一人として意見交換会に参加1名。

4 実施内容	
オープニング～自己紹介～	<ul style="list-style-type: none"> 本ワークショップは、公共施設バリアフリー整備に係る方針策定のための第5回意見交換会としての実施で、谷田部小学校外基本構想担当者（市担当者）が初めて参加することから、オープニングとして自己紹介を実施した。 自己紹介にあたっては、出席者も多いことから一人当たり30秒程度でお願いした。内容は、出席者名簿No、所属、氏名に加えて「最近の私」を述べてもらいアイスブレイク効果を促進した。
1 はじめに	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から今回の意見交換内容について説明した。
2 谷田部小学校外基本構想に係る意見交換～(1)谷田部小学校外基本構想の概要説明～	<ul style="list-style-type: none"> 谷田部小学校外基本構想担当者（公共資産利活用推進課）から、谷田部小学校外基本構想の概要を説明した。主な内容としては、基本理念やコンセプトに関すること、本事業の特徴である複合化・共用化に関すること、ゾーニングや配置に関することを説明した。
2 谷田部小学校外基本構想に係る意見交換～(2)バリアフリー当事者の特定に係る意見交換～	<ul style="list-style-type: none"> 本事業で今後も継続して意見を聴く機会を設けていくため、本事業のバリアフリーに係る当事者が誰になるかを意見聴取した。 意見聴取にあたっては、当該事象の当事者として誰に意見を聴いたらいいかを確認した（当該事業は体育館や市民ホール、会議室等の様々な機能を有する施設の整備ということから当日の出席者は当事者になるという想定のもと、そのほかに誰がな当事者になるかを聞いた）。
2 谷田部小学校外基本構想に係る意見交換～(3)バリアフリー留意事項に係る意見交換～	<ul style="list-style-type: none"> 本事業に求めるバリアフリー配慮事項を出席者に検討してもらった。検討方法としては、当事者と市の当事者関係部署がペアになって、配慮事項をふせんに記載してもらった。その付箋をホワイトボードに貼ってもらい、各出席者に発表してもらった。 また、配慮事項については新国立競技場整備事業の業務要求水準書のユニバーサルデザインに関する記載を参考にしてもらった。
3 今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から、今後の予定として次の意見交換会の日時や内容について説明した。
クロージング～ふりかえり～	<ul style="list-style-type: none"> 出席者全員から、本意見交換の感想等を述べてもらって終了した。



5 意見聴取後の対応・反省点	
意見聴取後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換会でいただいた意見を以下の3つに仕分けした。 <ul style="list-style-type: none"> ①基本構想の整備方針等にバリアフリー対応の配慮事項として記載を検討する意見 ②次の段階（基本設計）以降のワークショップ等で取り扱う意見 ③一般的な意見 公共施設バリアフリー整備に係る第7回意見交換会（令和8年2月）において、意見の仕分けを行ったことを報告した（フィードバックした）。
担当者が感じた反省点	<ul style="list-style-type: none"> 内容が複雑で全体的に説明が長くなってしまったため、出席者が内容をしっかり理解できたかは不明なところがある（出席者が理解した上での意見聴取・意見交換となったかは不明である）。 →出席者は、施設整備という観点では分からない点が多くあるのが一般的なもので、説明は簡潔また工夫して行うことが大切で、内容も多く詰めすぎるのもよくないと感じた。 参加者招集関係で、視覚障害者だけでなく全ての出席者にオンライン参加も可能であることを周知するべきだった。

(3) (仮称) つくば市陸上競技場整備事業【施設実現フェーズ_実施設計段階】

1 基本情報	
会議名等	(仮称) つくば市陸上競技場に係る意見交換 (公共施設バリアフリー整備に係る第4回意見交換会)
実施部署等	・公共資産利活用推進課 (公共施設バリアフリー整備に係る方針策定部署) ・スポーツ施設課 (事業の担当部署)
実施日時・ 場所	令和7年(2025年)6月27日(金)10:00~12:30 (いつものメンバー) // 13:30~15:30 (パラアスリート) つくば市役所コミュニティ棟1階会議室A
開催方式	ワークショップ (対面)

2 出席者

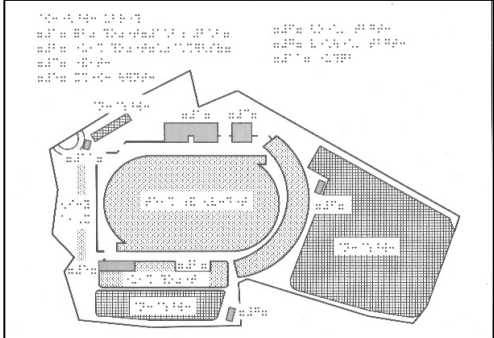

<令和7年6月27日(金) 10:00~12:30>

	視点	団体及び人数	備考
当事者 8名	肢体不自由	つくば自立生活センターほにゃら 1名	
	聴覚障害	特定非営利活動法人つくば市聾者協会 2名	
	妊産婦・乳幼児連れ	特定非営利活動法人ままとーん 1名	
	知的・精神障害及び その介助者等	つくば市手をつなぐ育成会 1名 つくば市自立支援協議会 1名	
	高齢者	つくば市シルバークラブ連合会 1名	
	外国人	一般財団法人つくば市国際交流協会 1名	
有識者 2名		筑波技術大学産業技術学部 教授	
		筑波技術大学産業技術学部 准教授	
つくば市 11名	当事者関係部署	国際都市推進課 1名	外国人
		企画経営課 1名	つくば市バリアフリーマスタープラン担当
		障害者地域支援室 1名	障害者
		高齢福祉課 1名	高齢者
		こども未来センター 1名	妊産婦・乳幼児連れ
	陸上競技場担当	スポーツ施設課 2名	
事務局	公共資産利活用推進課 4名	ファシリテーター、PC操作等	

<令和7年6月27日(金) 13:30~15:30>

	視点	団体及び人数	備考
当事者 7名	パラアスリート (視覚障害)	陸上競技 1名 ブラインドサッカー 1名	
	パラアスリート (車いす使用者)	陸上競技 1名 車いすバスケ&陸上競技 1名 カメラ 1名	
	パラアスリート (聴覚障害)	陸上競技 2名	うち1名オンライン
有識者 2名		筑波技術大学産業技術学部 教授	
		筑波技術大学産業技術学部 准教授	
つくば市 8名	当事者関係部署	スポーツ振興課 1名	障害者スポーツ
		障害者地域支援室 1名	障害者
	陸上競技場担当	スポーツ施設課 2名	
	事務局	公共資産利活用推進課 5名	ファシリテーター、PC操作等

3 開催に向けて（事前準備～当日準備）

<p>参加者選定と招集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者は「つくば市公共施設バリアフリー整備に係る方針」策定のための意見交換会メンバーに加え、今回のテーマが陸上競技場ということでパラアスリートにも参加依頼した。有識者も方針策定のために協力していただいている筑波技術大学の先生に参加依頼した（パラアスリートの調整は筑波技術大学の先生にしていた）。また、出席者の人数の関係から2部制（午前と午後）で実施した。 ・市出席者については、意見交換会メンバー（当事者関係部署）に加え、今回のテーマである（仮称）つくば市陸上競技場の担当部署であるスポーツ施設課、障害者スポーツに関係するスポーツ振興課に参加依頼した。 ・開催にあたっては、開催通知をメール等で送付し、同じくメール等で出欠の確認をした（高齢者は郵送や電話対応）。 ・視覚障害者への通知についてもメールで行い、添付ファイル（開催通知文）の内容をメール本文にも記載した。また、オンライン参加も可能である旨連絡した（オンライン参加ができるような体制を整えておいた）。
<p>情報保障の事前準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者への情報保障として、手話通訳者を茨城県立障害者福祉センターやすらぎにFAXで依頼した。 ・全出席者に当日説明用資料（パワーポイント）を送付した。また、視覚障害者へは、情報保障として当日説明用資料（パワーポイント形式）に加え、そのテキスト版（ワード）も作成して送付した。
<p>当日資料とツール</p>	<p>（当日資料）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は、出席者名簿、当日の説明用資料（パワーポイント）で、説明用資料はスクリーンに投影した。 ・また、会場は椅子のみで机は設置しない関係から、資料はバインダーで挟んで渡した。 ・視覚障害者への情報保障として触れる図面を作成した。触れる図面については、有識者の筑波技術大学の先生に対応していただいた（筑波技術大学内で触れる図面の作成ができる設備がある）。 <p>（準備したツール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター、スクリーン等（資料等を投影するため） ・マイク 
<p>当日の会場運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者座席はU字型配置（椅子のみ）で、全体を見やすく対話重視とした（自由席、午後の車いすパラアスリートの前には机を設置した）。 ・手話通訳者（2名）の位置（どこで通訳するか）については、手話通訳者及び出席する聴覚障害者と調整して決定した。 
<p>当日の役割分担（市職員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者関係部署は、出席者の一人として意見交換会に参加。 ・陸上競技場担当部署であるスポーツ施設課は、事業の概要説明や質問対応。 ・事務局（公共資産利活用推進課）5名は、ファシリテーター1名、書記1名、PC操作1名、マイク係1名、出席者の一人として意見交換会に参加1名。

4 実施内容	
オープニング ～自己紹介 ～	<p>(午前の部：いつものメンバー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から引き続きの意見交換会であり、出席者もお互いに分かっているが、令和7年度の最初の意見交換会ということで自己紹介をした。 ・自己紹介の内容は、出席名簿No、所属、氏名。 <p>(午後の部：パラアスリート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニングとして自己紹介を実施した。 ・自己紹介の内容は、出席名簿No、所属、氏名に加えて「スポーツあるある」を述べてもらい、アイスブレイク効果を促進した。
1 はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から今回の意見交換内容について説明した。
2 (仮称) つくば市陸上競技場の事業概要等説明	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技場整備担当部署のスポーツ施設課から、(仮称)つくば市陸上競技場基本設計の概要を説明した。主な内容としては、背景と方針、計画の概要、導入機能等。
3 出席者への事前ヒアリング結果の共有(午後のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラアスリートの部(午後の部)では、意見交換を有意義なものにするため、事前ヒアリングという形(オンライン)で視点毎(視覚障害、車いす使用者、聴覚障害)に意見を聴いたため、その結果を出席者全員で共有した(事務局から結果を説明した)。
4 (仮称) つくば市陸上競技場に係る意見交換会(トイレ、観客席、荷物置き場、着替え、シャワー等)	<p>(午前の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換するテーマ(①バリアフリートイレの機能と配置、②観客席)を設定して意見交換した。 ・そのほかには、カームダウン・クールダウンスペースについて意見交換した。 <p>(午後の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換するテーマ(①荷物置き場、②着替え、③トイレ利用、④シャワー)を設定して、アスリート目線から意見をいただいた。
クロージング ～ふりかえり ～	<ul style="list-style-type: none"> ・出席者全員から、本意見交換の感想等を述べてもらって終了した。

5 意見聴取後の対応・反省点	
意見聴取後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・出席者からの意見を、実施設計に盛り込めるか検討した。
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・説明用資料の事前送付が遅くなってしまった。

(4) つくば市民・学校プール（みどりのプール）【施設実現フェーズ_施工段階】

1 基本情報	
会議名等	(仮称) みどりの学校プールバリアフリートイレについて ((仮称) みどりの学校プール建設事業)
実施部署等	市民部スポーツ施設整備室
実施日時・場所	令和4年(2022年)4月28日(木)13:30~14:30 つくば市役所5階 西会議室
開催方式	シミュレーション

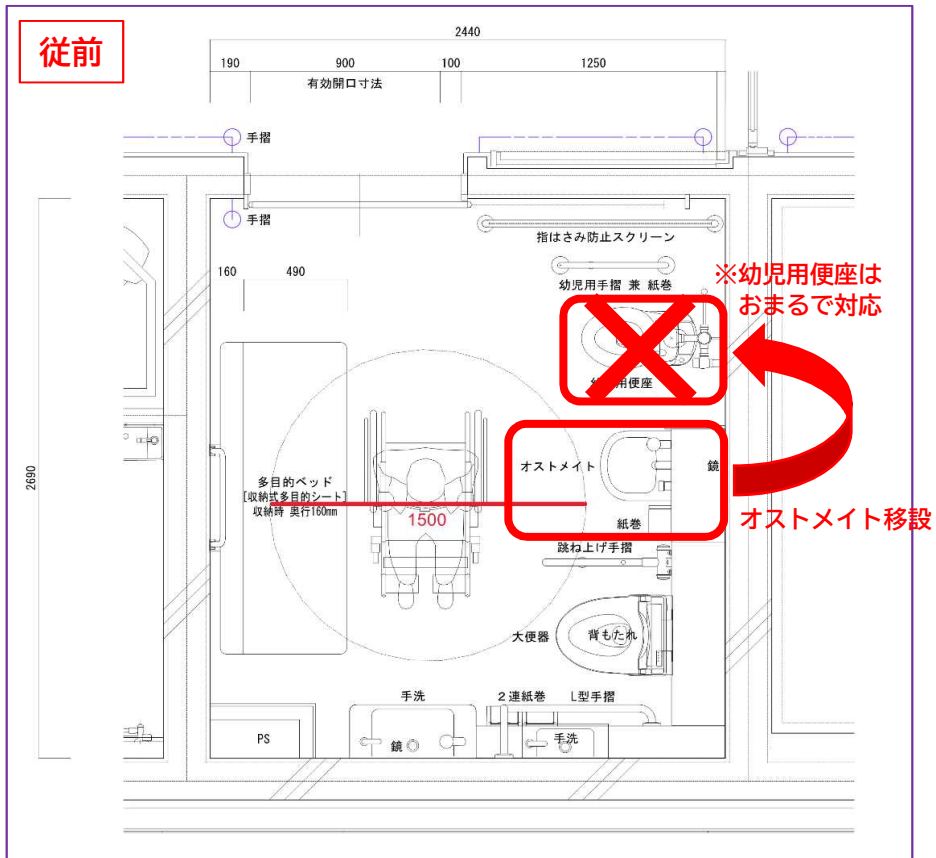
2 出席者			
視点		団体及び人数	備考
当事者 7名	肢体不自由	つくば自立生活センターほにゃら 4名 介助者 3名	
市議会議員 4名		つくば市民ネットワーク 4名	
つくば市 3名	事務局	スポーツ施設整備室 3名	

3 開催に向けて（事前準備～当日準備）	
当日資料とツール	・シミュレーションを行うため、設計図と養生テープを用意
当日の役割分担（市職員）	・図面の再現（シミュレーション） 全員 ・参加者の発言記録係 1名

4 実施内容	
1 概要	<p>・（仮称）みどりの学校プールのバリアフリートイレの仕様について、会議室内にて衛生機器等の位置出しを行い、実際に車いす利用者の協力を得ながら、シミュレーションを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

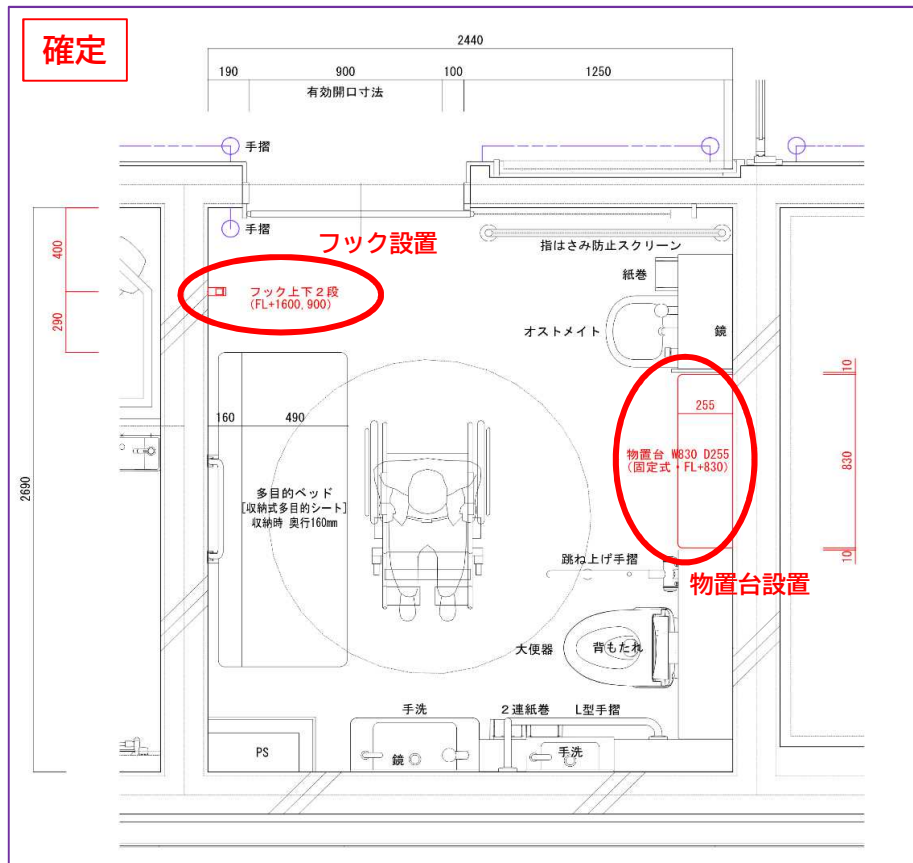
- ・だれでも更衣室側のバリアフリートイレについて、吸引器を置くスペース、介助者の行動域を考慮すると、幼児用便座、オストメイトが多少邪魔になる。また、利用者が荷物を置くスペースがない。
→幼児用便座を取り止め（別途おまるで対応）、オストメイトを移設した。棚の設置も検討し設置した。

従前



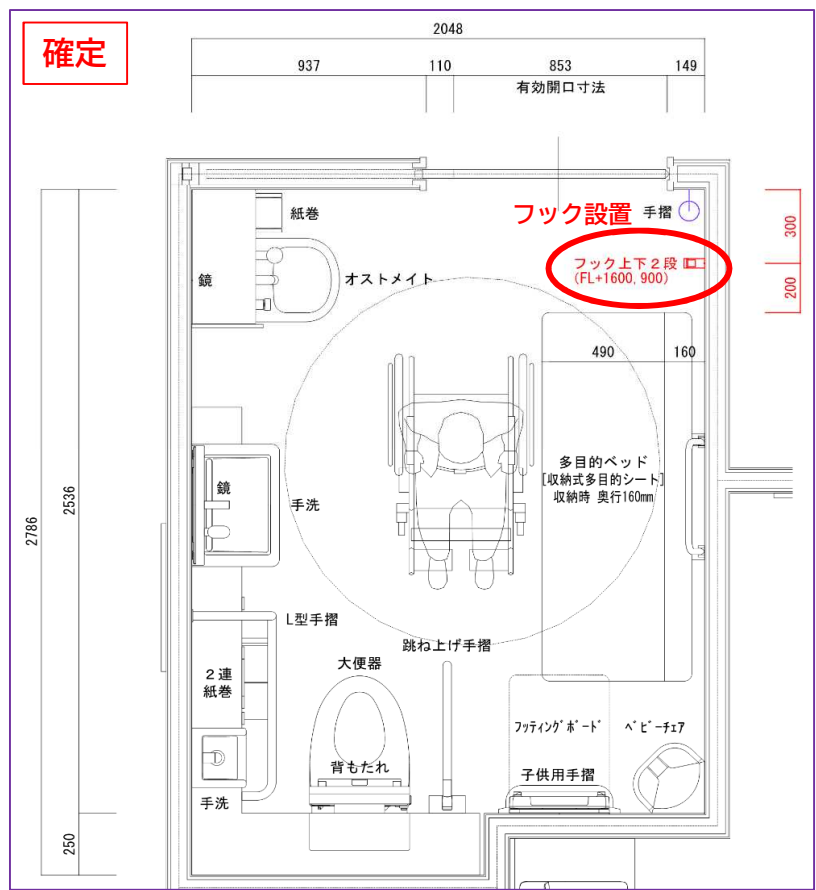
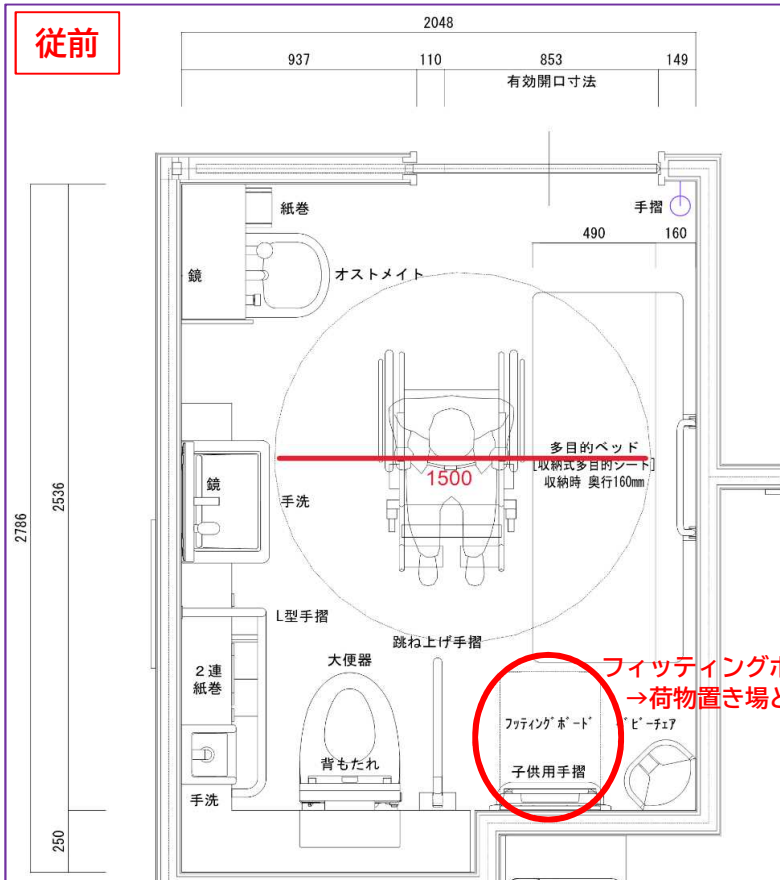
2だれでも更衣室側バリアフリートイレについて

確定



- ・ 出入口付近バリアフリートイレについて、だれでも更衣室側バリアフリートイレと同様、利用者が荷物を置くスペースがない。
→ 荷物置き場としては、フィッティングボードが利用可能。その他、フックを設置した。

3 出入口付近バリアフリートイレについて



5 意見聴取後の対応

意見聴取後の対応

- ・当日の要望等を踏まえ、設計内容を変更した。
- ・変更した設計内容について、つくば自立生活センターほにゃらに説明した。
- ・工事完了後にシミュレーションに出席した当事者等と現地確認し、使いやすくなっていることを確認した。

6 その他

「おもいやり駐車場」についても、当事者の意見を取り入れ整備した。主な配慮ポイントは以下のとおり。

- ・通常よりもスペースを広くとり、屋根も大きくした（雨天時の乗降時、濡れずに建物まで入場可）。
- ・駐車場の車止めブロックを低タイプのものにした。
- ・施工時に福祉車両で駐車シミュレーションを行い、車止めの設置位置をミリ単位で調整した。



(5) コリドイオ（つくば市民センター）【維持管理・運営フェーズ】

1 基本情報	
会議名等	コリドイオ（つくば市民センター）の現地確認 （公共施設バリアフリー整備に係る方針策定に向けての公共施設点検）
実施部署等	公共資産利活用推進課（公共施設バリアフリー整備に係る方針策定部署）
実施日時・場所	1日目：令和6年(2024年)11月8日(金)10:00～12:30 2日目： // 11月15日(金)10:00～12:30 コリドイオ（つくば市民センター） ※出席者の人数の関係から、2日に分けて実施
開催方式	現地確認

2 出席者

< 1日目：令和6年(2024年)11月8日(金) >

視点	団体及び人数	備考	
当事者 11名	視覚障害	筑波技術大学保健科学部准教授 1名 筑波技術大学 学生 2名	
	知的・精神障害及びその介助者等	つくば市手をつなぐ育成会 1名 つくば市肢体不自由児者父母の会 1名 かけはしねっと(医ケア) 1名	
	妊産婦・乳幼児連れ	特定非営利活動法人ままとーん 3名 (うち子供1名)	
	外国人	一般財団法人つくば市国際交流協会 2名	
有識者 2名		筑波技術大学産業技術学部 教授	
		筑波技術大学産業技術学部 准教授	
つくば市 7名	当事者関係部署	国際都市推進課 1名	外国人
		障害者地域支援室 1名	障害者
		こども未来センター 1名	妊産婦・乳幼児連れ
	事務局	公共資産利活用推進課 4名	ファシリテーター、PC操作等





< 2日目：令和6年(2024年)11月15日(金) >

視点	団体及び人数	備考	
当事者 8名	肢体不自由	つくば自立生活センターほにゃら 3名 (うち介助者1名)	
	聴覚障害	特定非営利活動法人つくば市聾者協会 2名	
	知的・精神障害及びその介助者等	つくば市自立支援協議会 1名	
	高齢者	つくば市シルバークラブ連合会 2名	
有識者 2名		筑波技術大学産業技術学部 教授	
		筑波技術大学産業技術学部 准教授	
つくば市 6名	当事者関係部署	障害者地域支援室 1名	障害者
		高齢福祉課 1名	高齢者
	事務局	公共資産利活用推進課 4名	ファシリテーター、PC操作等

3 開催に向けて（事前準備～当日準備）

<p>参加者選定と招集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者は「つくば市公共施設バリアフリー整備に係る方針」策定のための意見交換会メンバーに参加依頼した。また、より効果的な現地確認とするため、メンバーのほかに1～2名程度同行していただくことを可能とした。有識者も方針策定のために協力していただいている筑波技術大学の先生に参加依頼した（視覚障害者の同行者は筑波技術大学の先生に調整していただいた）。 ・市出席者については、意見交換会メンバー（当事者関係部署）に参加依頼した。 ・開催にあたっては、意見交換会メンバー全員に出席してもらうために事前に日程調整した（実施日2日のうちどちらが都合がいいか確認した。）その後、開催通知をメール等で送付し、同じくメール等で出席する人数及び出席者名の確認をした（高齢者は郵送や電話対応）。 ・視覚障害者への通知についてもメールで行い、添付ファイル（開催通知文）の内容をメール本文にも記載した。また、今回は現地確認のため現地参加を依頼した。会場までの移動は、有識者（筑波技術大学の先生）に調整していただいた。
<p>情報保障の事前準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者への情報保障として、手話通訳者を茨城県立障害者福祉センターやすらぎにFAXで依頼した。
<p>当日資料とツール</p>	<p>（当日資料）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は、当日の説明用資料（ワード）で、資料を確認等しながら現地確認してもらうため資料はバインダーで挟んで渡した。 <p>（準備したツール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニター（撮った写真等を投影するため、市民センターから借用） ・i P a d（現地で写真をとるため） ・ふせんとペン（現地確認する時のメモ用） ・ホワイトボード（ふせんに貼るため） <p>（部屋の予約等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前説明、現地確認、気づきの共有時の部屋として市民センターの調理室を予約した（調理室でも会議は可能とのことから）。現地確認については、全ての部屋等を確認できることがベストだが、予約状況や施設の運営を考慮して可能な範囲で予約した。
<p>当日の会場運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室に備え付けのテーブルやいすに、団体等毎にまとまって座ってもらった（自由席）。 ・手話通訳者（2名）の位置（どこで通訳するか）については、手話通訳者及び出席する聴覚障害者と調整して決定した。
<p>当日の役割分担（市職員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者関係部署は、出席者の一人として現地確認に参加（グループに入って当事者と一緒に現地確認）。 ・事務局4名は、ファシリテーター1名、i P a d操作2名（写真撮影及び撮影した写真をモニターに投影）、出席者の一人として現地確認に参加1名。

4 実施内容

<p>【開始】 1 事前説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から現地確認のタイムスケジュール、現地確認の目的や方法等について説明した。現地確認は、出席者を2グループに分かれて確認した（グループ分けは以下のとおり）。 11/8(1日目) A：当事者（視覚障害、外国人）、有識者（筑波技術大学） 市職員（国際都市推進課、障害者地域支援室、公共資産利活用推進課） B：当事者（知的・精神障害及びその介助者等、妊産婦・乳幼児） 有識者（筑波技術大学） 市職員（こども未来センター、公共資産利活用推進課） 11/15(2日目) A：当事者（高齢者、聴覚障害）、有識者（筑波技術大学） 市職員（高齢福祉課、公共資産利活用推進課） B：当事者（肢体不自由、知的・精神障害及びその介助者等） 有識者（筑波技術大学） 市職員（障害者地域支援室、公共資産利活用推進課） ※市民センター職員は、グループには属さずに施設の案内や受付シミュレーション（運営者側）を実施してもらった。 確認箇所については、事務局において設定した箇所（窓口で手続、調理室利用、アメニティ利用、通路・歩行空間等）を確認してもらった。
<p>3 現地確認の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎に現地確認を実施。また、現地確認は、ふせんを用いて、メモを取ってもらいながら実施した（ふせんは現地確認後の気づきの共有で活用）。 ふせんには、点検箇所、良い点か問題点、その内容を記載してもらった（視点毎にふせんの色を変えて誰が記載したか分かるようにした）。 ※現地確認時は、市民センターの職員と連携し、他の利用者へ配慮しつつ、当日の利用状況に応じて開いている部屋や共用スペース等も確認できるように、臨機応変に対応した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>4 休憩</p>	<ul style="list-style-type: none"> 15分程度休憩をとった。
<p>5 気づきの共有（各団体から発表）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボード上に良い点・問題点、現確認箇所の欄をつくり、出席者がメモしたふせんで該当箇所に貼ってもらった。 その後、現地確認結果をグループ毎に発表してもらい、参加者で内容を共有した。 発表の際には、良い点・問題点に加えて、問題点の場合はその解決策も一緒に発表してもらうようお願いした。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>6 宿題シート作成の依頼【終了】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次の会議（第2回意見交換会）で、現地確認結果について意見交換するため、出席者に良い点・問題点の理由や、問題点の場合はその解決策をまとめてもらうこと（宿題シートの提出）を依頼した。

5 意見聴取後の対応・反省点

意見聴取後の
対応

・参加者から提出してもらった宿題シートを1つの
ファイルにとりまとめて、参加者に共有した。


【参考資料】
公共施設点検
参加者回答一覧

(6) 大穂交流センター・大穂体育館【維持管理・運営フェーズ】

1 基本情報	
会議名等	大穂交流センター、大穂体育館の現地確認 (公共施設バリアフリー整備に係る方針策定に向けての公共施設点検)
実施部署等	公共資産利活用推進課 (公共施設バリアフリー整備に係る方針策定部署)
実施日時・場所	令和7年(2025年)7月25日(金)10:00~12:30、8月1日(金)10:00~12:30 大穂交流センター、大穂体育館 ※出席者数の関係から、2日に分けて実施 ※事前説明及び気づきの共有は大穂保健センター
開催方式	現地確認

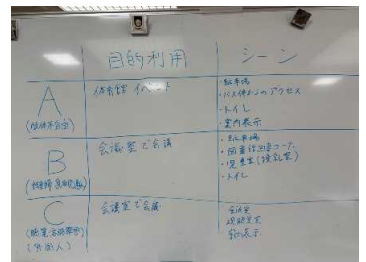
2 出席者			
<令和7年(2025年)7月25日(金)>			
	視点	団体及び人数	備考
当事者 11名	肢体不自由	つくば自立生活センターほにゃら 4名 (うち介助者1名)	
	聴覚障害	特定非営利活動法人つくば市聾者協会 2名	
	妊産婦・乳幼児連れ	特定非営利活動法人ままとーん 4名 (うち子供2名)	
	外国人	一般財団法人つくば市国際交流協会 1名	
有識者 2名		筑波技術大学産業技術学部 教授	
		筑波技術大学産業技術学部 准教授	
つくば市 6名	当事者関係部署	国際都市推進課 1名	外国人
		障害者地域支援室 1名	障害者
		こども未来センター 1名	妊産婦・乳幼児連れ
	事務局	公共資産利活用推進課 3名	ファシリテーター、PC操作等
<令和7年(2025年)8月1日(金)>			
	視点	団体及び人数	備考
当事者 7名	視覚障害	筑波技術大学保健科学部准教授 1名	
	知的・精神障害及びその介助者等	つくば市手をつなぐ育成会 1名 つくば市肢体不自由児者父母の会 1名 かけはしねっと(医ケア) 1名 つくば市自立支援協議会 1名	
	高齢者	つくば市シルバークラブ連合会 2名	
有識者 2名		筑波技術大学産業技術学部 教授	
		筑波技術大学産業技術学部 准教授	
つくば市 8名	当事者関係部署	企画経営課 2名	つくば市バリアフリーマスタープラン担当
		障害者地域支援室 1名	障害者
		高齢福祉課 2名	高齢者
	事務局	公共資産利活用推進課 3名	ファシリテーター、PC操作等

3 開催に向けて（事前準備～当日準備）

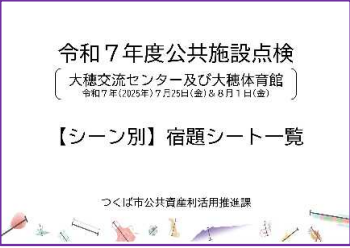
<p>参加者選定と招集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者は「つくば市公共施設バリアフリー整備に係る方針」策定のための意見交換会メンバーに参加依頼した。また、より効果的な現地確認とするため、メンバーのほかに1～2名程度同行していただくことを可能とした。有識者も方針策定のために協力していただいている筑波技術大学の先生に参加依頼した（視覚障害者の同行者は筑波技術大学の先生に調整していただいた）。 ・市出席者については、意見交換会メンバー（当事者関係部署）に参加依頼した。 ・開催にあたっては、意見交換会メンバー全員に出席してもらうために事前に日程調整した（実施日2日のうちどちらが都合がよいか確認した。）その後、開催通知をメール等で送付し、同じくメール等で出席する人数及び出席者名の確認をした（高齢者は郵送や電話対応）。 ・視覚障害者への通知についてもメールで行い、添付ファイル（開催通知文）の内容をメール本文にも記載した。また、今回は現地確認のため現地参加を依頼した。会場までの移動手段は、有識者（筑波技術大学の先生）と一緒に来てもらうよう調整した。
<p>情報保障の事前準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者への情報保障として、手話通訳者を茨城県立障害者福祉センターやすらぎにFAXで依頼。 ・現地確認を円滑に進めるため、全出席者に現地確認1日目の前日(7/24)に当日説明用資料（パワーポイント）を送付した。また、視覚障害者へは、情報保障として当日説明用資料（パワーポイント形式）に加え、そのテキスト版（ワード）も作成して送付した。
<p>当日資料とツール</p>	<p>(当日資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は、当日の説明用資料（パワーポイント）で、説明用資料は白い壁に投影した。 ・また、資料を確認等しながら現地確認してもらうため資料はバインダーで挟んで渡した <p>(準備したツール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター、PC等（現地で資料等投影するため） →投影する壁の位置等を事前に会場に行き確認した。 ・i P a d（現地で写真をとるため） ・ふせんとペン（現地確認する時のメモ用） ・A0サイズの施設の平面図や航空写真を組み合わせた図面（記載したふせんを貼るため） <p>(部屋の予約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地確認する部屋として、大穂交流センターの会議室、大穂体育館(アリーナ)を予約した。全ての部屋等を予約し確認できることがベストだが、予約状況や施設の運営を考慮して可能な範囲で予約した。 ・事前説明及び気づきの共有を行う部屋として、大保保健センター1階のフリースペースを予約した（大穂交流センターの会議室は2階にある）。
<p>当日の会場運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前説明及び点検後の気づきの共有（大穂保健センター）は、参加者座席をU字型配置（椅子のみ）で、全体を見やすく対話重視とした（自由席）。 ・手話通訳者（2名）の位置（どこで通訳するか）については、手話通訳者及び出席する聴覚障害者と調整して決定した。 
<p>当日の役割分担（市職員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者関係部署は、出席者の一人として現地確認に参加（グループに入って当事者と一緒に現地確認）。 ・事務局3名は、ファシリテーター1名、PC等操作1名、出席者の一人として現地確認に参加1名。

4 実施内容

<p>【開始】 1 事前説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から現地確認のタイムスケジュール、現地確認の目的や方法等について説明した。
<p>2 グループ毎に点検箇所を選択</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現地確認は、基本的に1団体+市職員を1グループとして、グループ毎に行った（グループ分けは以下のとおり）。 <ul style="list-style-type: none"> (1日目) A：肢体不自由+公共資産利活用推進課 B：妊産婦・乳幼児連れ+こども未来センター C：聴覚障害+外国人+障害者地域支援室+国際都市推進課 (2日目) A：視覚障害+障害者地域支援室+公共資産利活用推進課 B：高齢者+高齢福祉課 C：知的・精神障害及びその介助者等+企画経営課 ※有識者はグループには属さず、フリーで動いてもらった（事務局は進行管理）。 確認箇所については、事務局から候補を提示し、グループ毎に選択してもらった。
<p>3 現地確認の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎に現地確認を実施。また、現地確認は、ふせんを用いて、メモを取ってもらいながら実施した。（ふせんは現地確認後の気づきの共有で活用） ふせんには、点検箇所、記載者、気づき等の内容を記載してもらった。気づき等の内容については、以下の3つの視点で記載をお願いした。 <ul style="list-style-type: none"> 「これだと使えない点」 → 赤色ふせん 「これだと使いにくい、使いたくない点」 → 黄色ふせん 「良い点」 → 青色ふせん ※現地確認時は、大穂交流センターの職員と連携し、他の利用者へ配慮しつつ、当日の利用状況に応じて応じて開いている部屋や共用スペース等も確認できるように、臨機応変に対応した。
<p>4 休憩</p>	<ul style="list-style-type: none"> 15分程度休憩をとった。
<p>5 気づきの共有（各団体から発表）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きな図面（A0サイズ、施設の平面図や航空写真を組み合わせたもの）を机の上に広げ、出席者がメモしたふせんを図面上の該当箇所に貼ってもらった。 その後、参加者で机を囲むようにして、現地確認結果をグループ毎に発表してもらい、参加者で内容を共有した。 発表の際には、「使えない」、「使いにくい・使いたくない」、「良い点」の理由も一緒に発表してもらうようお願いした。
<p>6 宿題シート作成の依頼【終了】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設バリアフリー整備に係る方針の参考とするため、参加者に現地確認結果で得られた「使えない」、「使いにくい・使いたくない」の理由や解決策をまとめてもらうこと（宿題シートの提出）を依頼した。



5 意見聴取後の対応・反省点

意見聴取後の対応	・参加者から提出してもらった宿題シートを1つのファイルにとりまとめて、参加者に共有した。	 <p>令和7年度公共施設点検 〔大穂交流センター及び大穂体育館〕 令和7年(2025年)7月29日(金)～8月1日(金) 【シーン別】宿題シート一覧 つくば市公共資産利活用推進課</p>
反省点	・説明用資料の事前送付が遅くなってしまった。	

2 よくあるバリアの例（本編 第4章 関連）

<テーマ及びシーン一覧>

No	テーマ	シーン	掲載	ページ	No	テーマ	シーン	掲載	ページ
1	案内表示 (誘導サイン、エリアサイン、説明サイン)	/	○	23	5	利用	<全般>	○	39
		(1)建物へのアクセス	○	24			(1)会議室	—	—
(2)バス停からのアクセス	○	25	(2)和室	—			—		
(3)駐車場	○	26	(3)調理室	—			—		
(4)通路・歩行空間	○	27	(4)ホール	—			—		
(5)エレベーター、階段、昇降機	○	28	(5)図書館・図書コーナー	○			40		
3	手続	(1)窓口手続	○	29			(6)公園	—	—
		(2)手続方法 (Web含む)	○	30			(7)体育館・ジム	○	40
4	アメニティ	(1)トイレ	○	31			(8)プール	—	—
		(2)バリアフリートイレ	○	32			(9)その他屋外施設(サッカー場、テニスコート等)	—	—
		(3)授乳室	○	36			(10)食堂	—	—
		(4)キッズスペース	○	37			(11)購買	—	—
		(5)浴室・脱衣室・更衣室	○	37			(12)宿泊施設	—	—
		(6)カームダウン・クールダウンスペース	○	38	(13)フリースペース	○	40		
6	その他	/	○	41					

テーマ1 案内表示（誘導サイン、エリアサイン、説明サイン）

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	場所を示す情報が文字やマップ、ピクトグラムなど視覚情報だけであると、目的地を見つけることができない。	① ②	視覚障害者	使えない	<ul style="list-style-type: none"> ・場所を示す情報の代表例として誘導ブロックがあるが、それに加えて手すりに部屋名などの点字表記を貼り付けることも有効。 ・誘導ブロックに代わる簡易的な歩行誘導マットは、車いすとのコンフリクトを低減することが期待できる（参考資料①②参照） ・誘導ブロックのほか、音案内も手がかりとなる。 ・大きな文字であれば、資格情報を音声で読み上げるアプリの使用も可能。
2	案内サインの文字が小さく、漢字だけ、ピクトグラムだけだと、何を示しているのかわからない。	—	視覚障害者 聴覚障害者 知的障害者 高齢者 外国人	使いにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、ルビ（ひらがな）、ピクトグラム、英語表記を併用する。 ・視覚障害者（弱視の方）は文字の大きさやコントラストに配慮が必要。
3	バリアフリールート（スロープや段差のない移動経路）やバリアフリートイレ等の設備があるのに、その案内がないことがある（気づかずに遠回りすることがある）。	—	車いす使用者	使いにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・施設のホームページに、施設案内等の動画があると、事前に把握しやすくて良い（コリドイオのホームページが好事例）。
4	施設に建物が複数ある場合、目的の建物がどれなのかわからない。	—	全員	使いにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の出入口にある施設名称は、駐車場やバス停からも分かるように表示する。 ・適切な場所に、施設名と位置を示すマップサインを設置する。



テーマ2 アクセス・移動
2(1) 建物へのアクセス

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	入口が重い開き戸の場合、一人でドアを開けるのが難しい。	①	車いす使用者	使いにくい	自動式引き戸や、手動式引き戸にすることが望ましい。
2	階段や段差、スロープに手すりがないため、自力で昇り降りができない。	—	杖使用者 高齢者	使いにくい	手すりがあれば、階段やスロープ等をより安心して昇降等することができる。



2(2) バス停からのアクセス

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	バス停から建物入口までの間に手がかりになるものがないため、建物にアクセスできない。	—	視覚障害者	使いにくい	誘導ブロックのほか、建物入口の音案内も手がかりになる。
2	バス停周りのつくりや設置物が、バスの乗降を困難な状況にしている場合がある。	①	車いす使用者	使いにくい	<ul style="list-style-type: none"> 乗降するためのスロープ設置スペースを考慮してベンチ等を置く。 スロープの傾斜が急になる等が乗降を困難にする。
3	時刻表の設置高さや向きが適当でなく、確認が困難な場合がある。	—	車いす使用者	使いにくい	110cm程度の高さであれば、車いすに乗った状態でも内容を確認しやすい（120cm以上だと見づらい）。

参考資料①



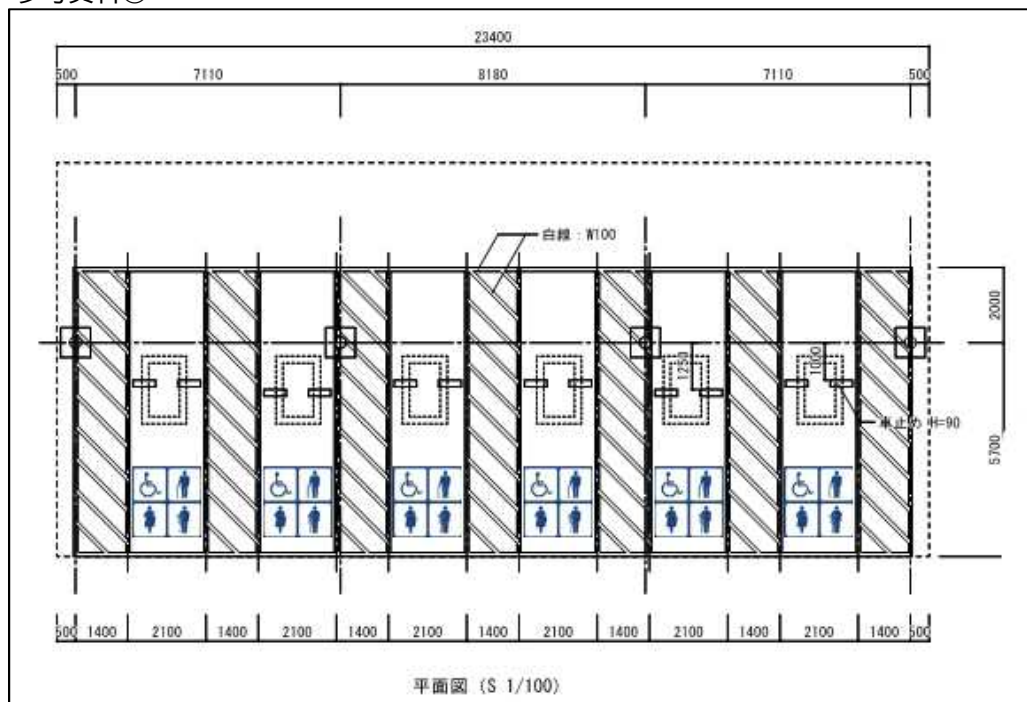
生成A I により作成

2(3) 駐車場

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	障害者用駐車場のスペースや数等が十分でないため、駐車や乗降に支障が生じる。	① ②	車いす使用者 介助者	使いにくい	みどりのプールの思いやり駐車場は当事者の意見を参考にして整備（参考資料①(写真)、参考資料②(図面)参照）。
2	障害者用駐車場の設置場所によっては、車通りが激しいところや車道側に降りるしかなく危険な場合がある。	—	車いす使用者 介助者	使いにくい	障害者用駐車場は、スペースや数のほか、設置場所にも注意する。



参考資料②



2(4) 通路・歩行空間

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	目的の部屋がどこにあるのか分からない。	①	視覚障害者	使いにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりに部屋名などの展示表記を貼り付けることも有効。 ・また、誘導ブロックに代わる簡易的な歩行誘導マットを部屋の入り口前に敷設するのもよい。車いすとのコンフリクトを低減することも期待できる（参考資料参照）。
2	移動経路上にスロープ（傾斜路）が突然あると驚いてしまう。バランスを崩し転倒してしまう恐れもある。	—	車いす使用者	使いにくい	スロープ（傾斜路）部分と水平床部分の色を変える等すると、スロープ（傾斜路）に気づきやすくなる。
3	足音や話し声が聞こえないと、死角から人が近づいていることに気づきにくいいため、曲がり角で人とぶつかる恐れがある。	—	聴覚障害者	使いにくい	死角がなくなるように、大きさや位置に留意して鏡等を設置する。



2(5) エレベーター、階段、昇降機

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	エレベータの非常時（停止等）にコミュニケーションがとれない。	—	聴覚障害者	使えない	手話のオペレーターに問い合わせができるQRコード・リンクを設置するなど。
2	階段昇降機のみでは、2階に上がれない。いす式の階段昇降機では座位が取れない車いす使用者等もいる。	—	車いす使用者 高齢者	使えない 使いにくい	<ul style="list-style-type: none"> エレベーターの設置が望ましいが、車いすが使用できる昇降機を選定する。 1階で目的が達成できるようにする。
3	階段の手すりが片側しかなく、障害等によって使用者が限られてしまう。	—	杖使用者 高齢者	使いにくい	<ul style="list-style-type: none"> 片麻痺者など片側を苦手とする方も使えるように、両側に手すりを設置する。 階段幅が広い場合は中央にも手すりを設置する。
4	階段と床が同系色であると、階段の存在に気づきにくく、誤って階段に落ちる場合がある。	—	車いす使用者	使いにくい	階段の降り口に点状ブロックを敷設する、コントラストを大きくする仕上げ材を選定する、明度や彩度の高いシール等で階段の段鼻を目立たせる。
5	エレベーター内にミラーやモニターがないと、出入り口を確認できない。	—	車いす使用者	使いにくい	ミラーやモニターがあることにより、エレベーター内で方向転換をすることなく、出入口の様子を確認しながらエレベーターを降りることができる。

テーマ3 手続
3(1) 窓口手続

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	受付までの距離や方向が分からず、立ち往生してしまう（声をかけようにも、どこに向かって、どれくらいの声を出せばよいか判断できない）。	① ②	視覚障害者	使えない	<ul style="list-style-type: none"> ・受付まで誘導ブロックまたは音声で案内できることが基本である。 ・誘導ブロックに代わる簡易的な歩行誘導マットは、車いすとのコンフリクトを低減することが期待できる（参考資料②参照）。 ・ソフト面として積極的な声掛けも必要。
2	車いすで受付する際に、備え付けの椅子が動かしにくい。	③	車いす使用者	使にくい	
3	申請書やその記入例、パンフレット等の文字が小さい、日本語や漢字だけだとわかりづらい。	—	知的障害者 高齢者 外国人	使にくい	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で漢字にはルビ（ひらがな）を振る。 ・拡大鏡を準備しておく。 ・カメラ入力翻訳を考慮したやさしい日本語での資料づくり。
4	筆談ボードやコミュニケーション支援ボードが設置されているのに、気づかない場合がある、見づらいデザインになっている。	—	聴覚障害者	使にくい	準備していることを分かりやすく提示する。できれば見える場所にボード類を置いておくことが望ましい。
5	受付窓口の呼び出しが音声だけだと、自分の順番が来たことに気づけない。	—	聴覚障害者	使にくい	モニターに番号を分かりやすく表示や振動ブザーを渡すなど、音声以外の提示方法を検討する。



3(2) 手続方法 (Web含む)

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	Webで手続画面（日付選択や入力ボタン等）が音声読み上げソフトに対応しておらず、入力途中で操作不能となり手続きを完了できない。	—	視覚障害者	使いにくい	
2	手続や予約の受付手段が多様でないと、移動や特定の操作が困難な場合に手続きを円滑に行えない。	—	全員	使いにくい	対面・電話・オンライン等の複数の受付手段を選択できるようにするなど。

テーマ4 アメニティ
4(1) トイレ

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	トイレ入口の男女の区別が視覚的な表示のみのため、一人で目的のトイレに入ることができない。	—	視覚障害者	使いにくい	・手の届きやすい高さに触知案内、触知サインなどを使用する。 ・必要に応じて音声案内等の案内を検討する。
2	トイレの便房(個室)扉が未使用時も閉まった状態では、使用状況を判断する手段がないため、使用中かどうか分からない。	①	視覚障害者	使いにくい	空室時開放となるドアへの変更や、施錠／開錠表示が大きい設備を使用する。
3	トイレの便器が和式だと、足腰への負担が大きく利用しづらい。	—	高齢者 妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	腰掛便座へ変更する。ただしその場合、便房(個室)の数が減る可能性があるため、利用者の実態に応じた適切な数と施設内の適切な位置への配置に留意する。
4	トイレの便房(個室)内にベビーチェアがないため、子連れで利用しにくい。	—	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	・男女トイレそれぞれに1箇所あるといい。 ・おむつ交換台も、施設の状況(バリアフリートイレの配置等)に応じ、必要箇所に設置するなど。
5	トイレの便房(個室)内にサニタリーボックスが未設置、またはサイズが不十分なため、衛生用品等の処理ができない。	②	高齢者	使いにくい	・性別を問わず設置する。 ・サニタリーボックス設置の案内例は参考資料②参照。



4(2) バリアフリートイレ

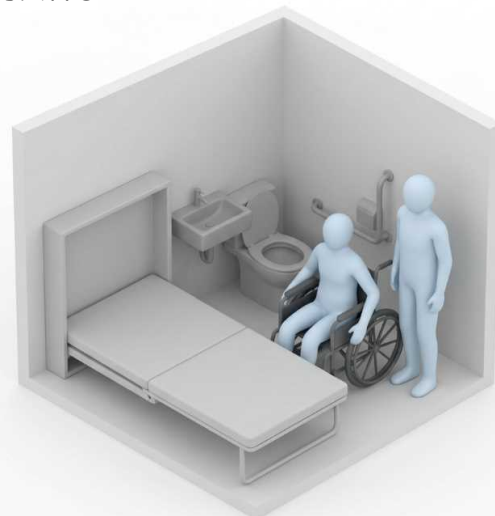
No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	バリアフリートイレが休日等に閉鎖されるエリアにあると、施設の一部のみが開館しているときに利用できない場合がある。	①	車いす使用者	使えない	設置位置に併せて運用も検討する。
2	バリアフリートイレの設置数の不足や休日等のエリア封鎖により、特定のトイレに利用が集中し、待ち時間が発生する。	—	車いす使用者	使いにくい	一般トイレの便房(個室)に広いスペースがあれば、車いす使用者によっては利用できる場合もあるので、広めの便房があることをサイン等で表示する。
3	バリアフリートイレで大型ベッドを使用する際、介助スペース並びに車いすを置くスペースが十分にとれず、介助が困難な場合がある。	② ③ ④	車いす使用者 介助者	使いにくい	・みどりのプールではバリアフリートイレの設備等を養生テープで再現し利用シミュレーションを行った(参考資料③④(図面)参照)。 ・みどりのプールのバリアフリートイレの大型ベッドの使用風景(好事例の動画)。 https://youtu.be/adZ93CHQvfg
4	バリアフリートイレの大型ベッドでは、動き回る乳児のおむつを安全に交換することは(こどもを支えるベルトもないため)困難である。	—	車いす使用者 介助者 妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	排泄介助が必要な障害者(児)の脱衣・おむつ交換のための大型ベッドと、乳幼児のおむつ交換台は、別々に設置することを検討する。

参考資料①



生成A Iにより作成

参考資料②

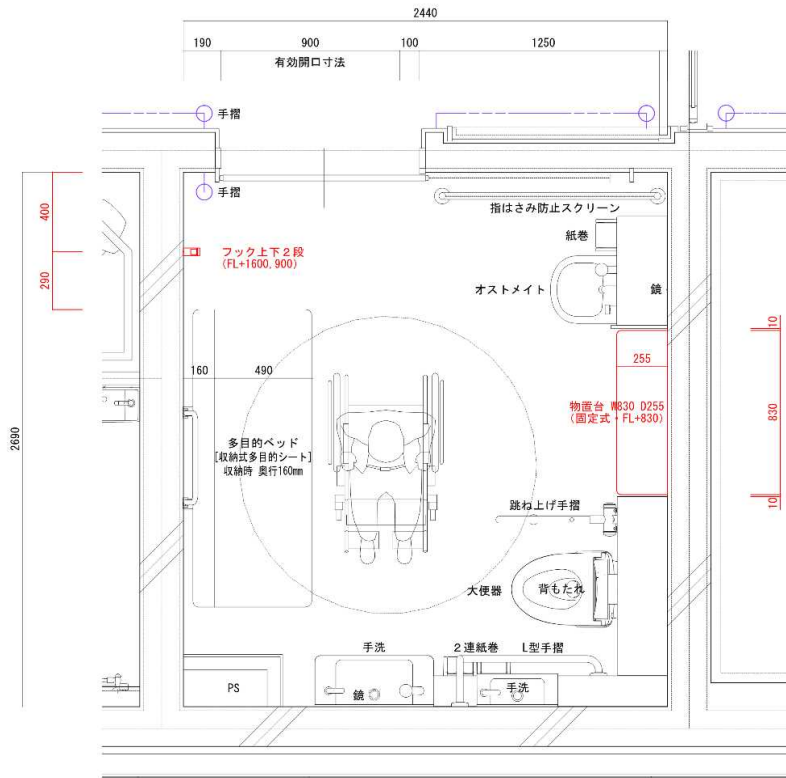


生成A Iにより作成

だれでも更衣室 多目的トイレ詳細図

参考資料③

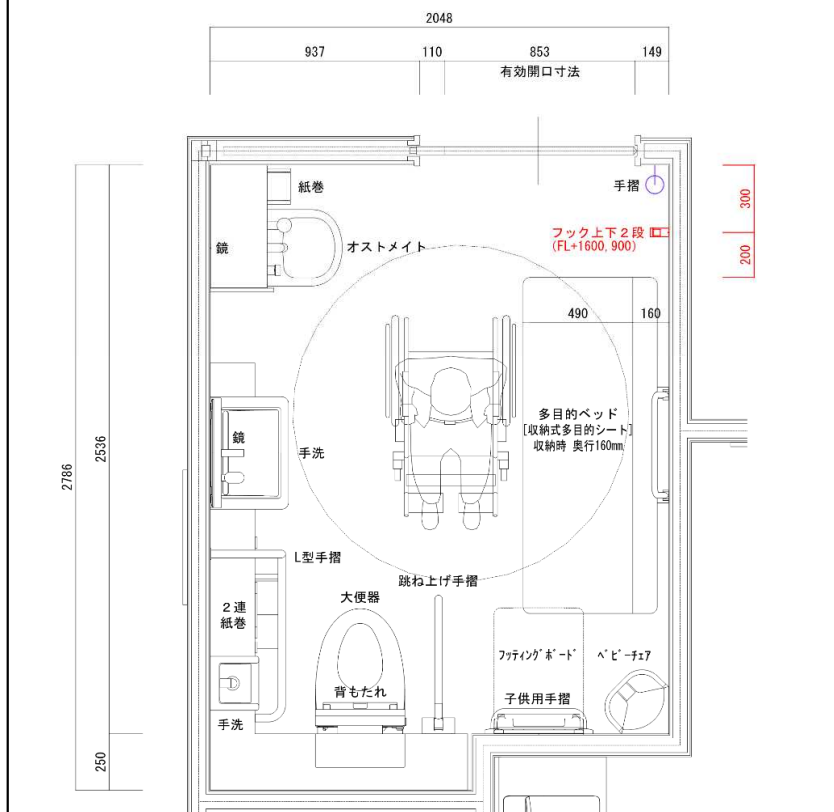
【確定】



出入口付近 多目的トイレ詳細図

参考資料④

【確定】



No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
5	バリアフリートイレの洗面台下が塞がっているため、車いすのまま奥まで行けず蛇口に手が届かない。	①	車いす使用者	使いにくい	車いす使用者の膝が入るスペースのある洗面台に変更・改修する。
6	バリアフリートイレの手すりの設置位置（右側・左側）によっては、使える人が限られてしまう。	—	車いす使用者	使いにくい	片麻痺者などは動かせる側で手すりをつかむ必要がある。館内に複数のバリアフリートイレがある場合は、左右の手すり位置の異なるトイレを整備するなど。
7	バリアフリートイレの手すりが固定式であったり、可動式であっても長さが不足していたり、手すり同士が離れていたりすると、便器への安全な移乗が困難である。	—	車いす使用者	使いにくい	車いすの横づけ、移乗時に体重を支えるために必要である。適切な設置高さ、便座や手すり同士の距離を確保する。
8	バリアフリートイレの便座の背もたれがないため、後ろにそっくり返ってしまう恐れがある。	—	車いす使用者	使いにくい	座位を保つことや立ち上がりが困難な人に配慮し、便座に背もたれを適切に設けるなど。



No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
9	バリアフリートイレ内に荷物を置く場所がない。	—	車いす使用者	使いにくい	・車いすに座った状態でも手の届きやすい位置や高さにフックや荷物置きを設置するなど。 ・車いす使用者は荷物が多いため重要。
10	バリアフリートイレの便器周りを仕切るカーテン等がない。	①	車いす使用者 介助者	使いにくい	・異性介助考慮の観点から必要である。 ・みどりのプールには設置済（参考資料参照）。
11	バリアフリートイレ内にベビーチェアがないため、子連れで利用しにくい。	—	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	幼児用補助便座やベビーチェアなど、乳幼児用設備を設置するなど。
12	バリアフリートイレの鍵が子供の手の届く位置にあると、子供が誤って鍵を開けてしまう恐れがある。	—	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	鍵を通常の高さのほか、幼児の手が届きにくい位置にも設置するなど。



4(3) 授乳室

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	授乳室入口に設備・備品（おむつ替え台等）や利用対象の表示がない、または表示が視覚情報のみのため、利用の判断ができない。	—	視覚障害者 妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	・ホームページ等で授乳室内の設備情報を詳細に公開する。 ・（乳児は同伴しない）搾乳や、男性による哺乳瓶での授乳の場合にも入室可能である旨を表示する。
2	授乳室の鍵が子供の手の届く位置にあると、同伴している子供が誤って鍵を開けてしまう恐れがある。	—	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	鍵を通常の高さのほか、幼児の手が届きにくい位置にも設置するなど。
3	おむつ替え台ごとに荷物置きがないため利用しにくい。	①	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	車いす使用者が使えるおむつ交換台（参考資料①参照）や、医療的ケア児向けの幅広で使いやすいおむつ交換台もある。
4	授乳中の使用状況を示す札（「空いています」「使用中です」）が設置されていない、または操作しづらいため、入室の判断ができない。	—	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	子供や荷物を抱えた状態でも容易に操作（片手での反転やスライド等）できる表示方法が望ましい（テンプレート電子書庫保存）。



4(4) キッズスペース

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	キッズスペースとフリースペース等の性質が異なる場所が隣接していると、子供の声が周囲に響かないか気にして利用しづらい。	—	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	利用についての案内の設置や、積極的な声掛けを行うなど。

4(5) 浴室・脱衣室・更衣室

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	浴室やシャワー室にシャワーチェアの貸し出しがない、またはサイズのバリエーションがなく、安全に身体を洗うことが困難である。	—	車いす使用者	使いにくい	
2	異性介助が必要な場合に利用できる個室の更衣室が不足している、または柔軟な運用がなされていない。	①	車いす使用者 介助者	使いにくい	みどりのプールに誰でも更衣室が設置されている（参考資料①参照）。



4(6) カームダウン・クールダウンスペース

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	施設内にカームダウン・クールダウンスペース（パニックや興奮を和らげる静かな空間）がないため、パニック時に落ち着いて過ごすことができない。	—	知的・精神・発達障害者	使えない	<ul style="list-style-type: none"> ・設置する際はどこにあるか分かるように設置する。 ・運用でどこかの部屋をカームダウン・クールダウンスペースとして使う。 ・専用スペースの設置が困難な場合でも、畳1畳分程度の省スペースを活用し、段ボールや簡易的な仕切り等で周囲からの視線を遮ることで落ち着ける空間を確保できる。

テーマ5 利 用
 <全 般>

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	出入り口が開き戸（手前や奥に押し引きして開けるドア）だと、ドアの自力開閉や、安全な通行が困難である。	—	車いす使用者 視覚障害者	使いにくい	引き戸（スライドドア）だと誰もが使いやすく、開け閉めに力が不要であるソフトクローズ機能や停止機能があるとよい。
2	机やシンクが高すぎたり、あらかじめ椅子が配置（セット）されていると、車いすでの作業や利用が難しい。	①	車いす使用者	使いにくい	昇降式の机の導入、椅子を設置しないところもつくるなど。
3	椅子に背もたれやひじ掛けがないと、転倒する恐れがある。	—	高齢者 妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	背もたれ付き、ひじ掛け付きの椅子も用意しておく。
4	会場準備をする際に、椅子や机が重いと準備が大変である。	—	高齢者	使いにくい	
5	和室をはじめ、段差がある部屋の昇降が困難である。	—	高齢者	使いにくい	手すりの設置など。
6	室内に利用可能なコンセントがないため、吸引器や呼吸器等の医療機器が充電できない。	—	車いす使用者	使いにくい	延長コードや充電式のバッテリーを貸し出すことができるとうよい。
7	会議室等でプロジェクターを使用する際に照明を細かく切り替えられないため、手話通訳者や司会等の付近まで暗くなり、手話や表情の判別が困難になる。	—	聴覚障害者	使いにくい	・照明のスイッチを細分化し、スクリーン周辺のみを消灯できるようにする。 ・消灯しなくても鮮明に映る高輝度プロジェクターや液晶ディスプレイを採用する。



5(5) 図書館・図書コーナー

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	図書棚の下段は見えず、また、上段は手が届かないため、自力で本をとれない。	①	車いす使用者	使いにくい	
2	図書棚の間隔が狭く、大型本が棚から飛び出していると、通路の通行や安全な移動にできない。	—	車いす使用者	使いにくい	
3	子供向けの本が高い位置にあると、子供が自力で本を取れない。	—	妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	



5(7) 体育館・ジム

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	体育館のステージまでの段差を解消する手段が階段以外に設置されていないため、自力での昇降や壇上への移動が困難である。	—	車いす使用者	使いにくい	スロープや車いすごと乗れる昇降機の設置、ステージを低くする、簡易ステージの設置など。

5(13) フリースペース

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	フリースペースの利用ルールを掲示した文字が小さい、または日本語や漢字だけだと、さらには視覚情報のみだと、内容を正しく理解できない。	—	視覚障害者 知的障害者 高齢者 外国人	使いにくい	・簡易な表現を心掛け、文字を大きくする。 ・適宜、ピクトグラムを使用すると伝わりやすい。

その他

No	よくあるバリアの内容	参考資料	特に問題視された方	バリアの程度	改善のポイント
1	備品の車いすに座面が固い標準型が多く、長時間の利用ではお尻の痛みや姿勢の崩れが生じやすい。	—	全員	使いにくい	備品として設置する際は、利用者の体格に合わせて調整できるクッション付きモジュールタイプ型の導入を検討し、既存のものには専用クッションを備え付けて、姿勢保持を図るなど。
2	自動販売機のボタンやコイン投入口が高い位置にあると、自力での購入が難しい。	—	車いす使用者 妊産婦・乳幼児連れ	使いにくい	ユニバーサル自販機の導入、「事務室に声をかけてください」という表示をするなど。